

Saita Museum emergency charity project for supporting the reconstruction following the Great East Japan Earthquake
The beauty of Karamushi-ramie fabric from the Sanpei Kimono collection in Fukushima

東日本大震災復興支援緊急特別展

KARAMUSHI

苧麻の美

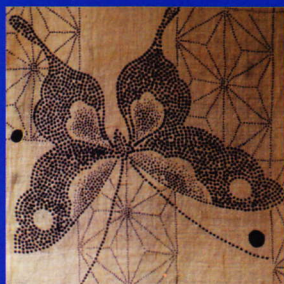
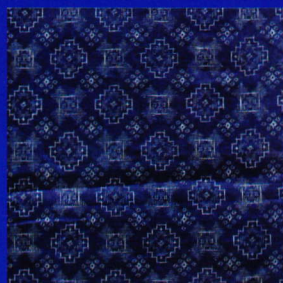
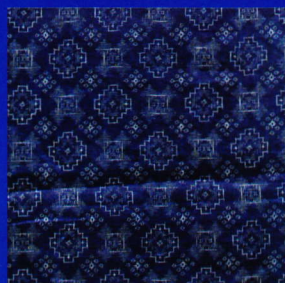
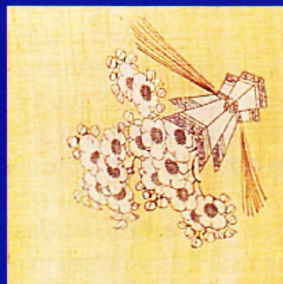
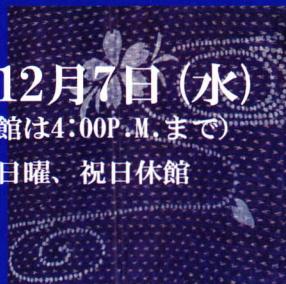
～福島・三瓶コレクションより～

2011年9月1日(木)～2011年12月7日(水)

10:00A.M.～1:00P.M. 2:00P.M.～4:30P.M. (入館は4:00P.M.まで)

土曜(第四土曜日9/24、10/22、11/26を除く)、日曜、祝日休館

入館料 300円(震災義援金)



齋田記念館

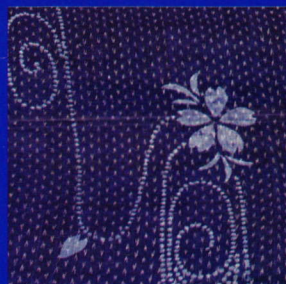
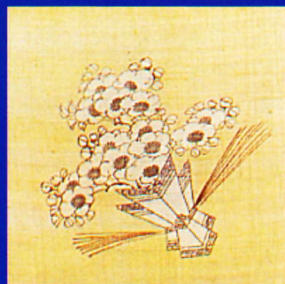
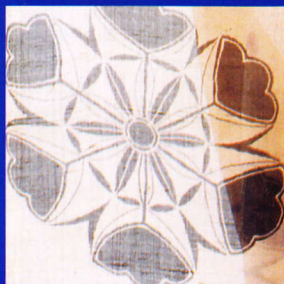
〒155-0033

東京都世田谷区代田3-23-35

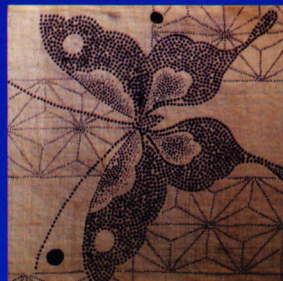
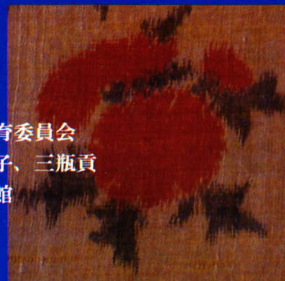
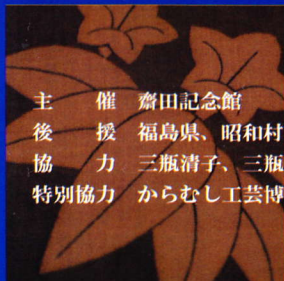
☎03-3414-1006

小田急線・世田谷代田駅南口下車徒歩7分

東急世田谷線・若林駅下車徒歩10分



主催 齋田記念館
後援 福島県、昭和村教育委員会
協力 三瓶清子、三瓶葉子、三瓶貢
特別協力 からむし工芸博物館





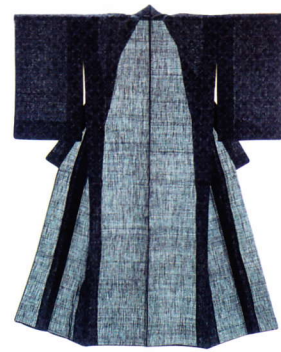
越後上布 幾何学文様着物



越後上布 格子文様着物



越後上布 薄藍地着物



越後上布 幾何学文様着物

本展では、福島県郡山市在住で古布の蒐集家で研究者でもある三瓶清子さんのコレクションより、幻の布と言われる苧麻(からむし・ちよま)の明治・大正期の着物を中心に展覧致します。

震災以来、節電や寄付以外に何か博物館として出来る事はないかと模索してきた齋田記念館では、職員が福島を訪問し、その膨大なコレクションと共に無事であった三瓶さんの寛大なお取り扱いによって、急遽今回の展覧会実現の運びとなりました。

和布の蒐集を始めて半世紀という三瓶さんの元には、今も沢山の布が集まり、そのコレクションには、端布をも愛おしむ暖かいお人柄が滲み出ているようです。風呂敷や子どもの着物などが特に著名で、日本中で展覧会が開かれています。本展のような上布を中心としたコレクションの紹介は、東京の博物館では初めての事になり、初公開の作品も多く含まれています。

上布とは元々上等な布の意で、イラクサ科の多年草である苧麻を手績みした細い糸を織った薄手の麻織物を指します。大変複雑な全行程を手作業で行うため、かなりの手間と時間を要しますが、繊維が極めて細く強靱で、光沢に富むとても美しい布です。越後・能登・近江・奈良・宮古上布など織布の産地名を付けて呼ばれ、それぞれに特色がありますが、本展ではそうした代表的な上布を一堂に会してご覧頂けます。上布の原料となる苧麻は、奈良時代から質の高い麻布の原料となり、江戸時代には武士の式服である袴に使われていました。現在は、福島県奥会津の昭和村が本州唯一の栽培地となり、生産と苧引きが国の選定保存技術に、栽培用具と製品が国の重要有形民俗文化財に指定されています。

芸術の定義を人為とした場合、その反対は自然という事になります。今回、地震により想像を絶する自然の脅威にさらされましたが、相対する人工…美術工芸品の美というのが、一瞬でもその凄絶な苦しみを忘れさせてくれる事もあるでしょう。日本人の手仕事の素晴らしさは、幕末に日本を訪れた外国人を驚嘆させるほどでした。名もなき作り手によって無心に織り上げられた苧麻織の美しさと静かに発せられるエネルギーを感じて、日本の良さ、日本人の特質といったものを再確認して頂きたい、それを未来への糧として自信に繋げたい、という思いを込めてこの展覧会を企画致しました。

3月11日以来、一変した我々を取り巻く環境や生活のなかで、本当にささやかではありますが、本展が新しいパラダイムを作る一助となる事を祈念致します。またそれが、震災で亡くなられた多くの方々の供養となりますことを願ってやみません。

尚、入館料は全て、人道的な見地から、また社会教育施設として教育の一端を担う立場から、あしなが育英会に寄付し、津波遺児への支援にお役立て頂きます。

photograph by Kenji Arai



苧麻地幾何学文様袴裃



苧麻地雪華文様着物



奈良晒 萩に菊文様四つ身



奈良晒 花包み文様一つ身



三瓶清子(さんぺい きよこ)氏

和布の蒐集・研究者
 昭和5年(1930)福島県田村郡三春町生まれ。
 他界した母の形見である和紙張りの箱に入った小さな裂をきっかけに和布を集めるようになる。特に風呂敷、着物等の蒐集、帛紗、百徳の製作で知られ、日本だけでなく海外でも展覧会が開催されている。
 平成8年刊行の娘・葉子氏との共著『包むこころ 風呂敷』が、翌年「第20回福島民報出版文化賞」正賞を受賞。また、同17年には、財団法人民族衣装文化普及協会第25回民族衣装文化功労者表彰式にて「きもの文化賞」を受賞。
 庶民時代裂研究会会員。